



第14号

発行・編集 広報委員会
 〒520-1821 マキノ町沢1410
 TEL 27-1132
 令和4年3月吉日

『ごあいさつ』



高島市老人クラブ連合会
 会長 鈴木 庄十朗

高島市老人クラブ連合会の運営事業につきましては、日頃より格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり「新型コロナウイルス感染症」が世界中に蔓延してから約二年が経過し、望みの綱でありますワクチンの予防接種はかなり進んだものの、一向に衰えの兆しが見えない日常が続いております。

令和3年におきましても、全国で「蔓延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」の発令解除が度々繰り返されるなど、感染は未だに収束の目途も立たず、全世界に大きな影響を及ぼし大変危惧しているところで、一日も早く平穏な日々が訪れることを、心から念ずるところでございます。

そんな中、会員の皆様におかれましても、自身のお体をご自愛頂くとともに、日常生活においても十分ご注意願ひ、ご家族皆様そろってご健康にて過ごせますよう、ご祈念申し上げますとさせていただきます。

さて、昨今の老人クラブ活動をとり巻く状況は、「新型コロナウイルス感染症」の拡大とも相まって、極めて厳しいものがあり、特に会員数の減少に歯止めがかかられず、長年にわたり伝統的に維持されてきた「老人クラブ連合会」という組織の存続が危ぶまれ、大変憂慮すべき状況に陥っております。

しかし、この現象を止める地域にあつた打開策は、見出すことは出来ませんが、引き続き会員の皆様のご指導を頂き、さらなるお力添えを賜りますことを、偏にお願ひ申し上げます。

私も微力ながら、その先頭に立つて働かせて頂きたいと思っております。

人生百年時代の中、老人クラブは、健康・友愛・奉仕を目標とした地域の組織です。日常生活においては、自分一人では生きてゆけません。

残り少ない高齢期の大切な一日一日を、お互いに助け合いながら、有意義に過ごそうではありませんか。

最後になりましたが、会員皆様のご健康とご活躍、そして変わらぬ深いご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます、私からのご挨拶と致します。



令和3年度
高島市老人クラブ連合会

【役員・評議員名簿】

- 会長 鈴木 庄十朗 (安曇川支部長)
- 副会長 前 川 勉 (今津支部長)
- 女性代表 高城 三千穂 (安曇川支部女性リーダー)
- 理事 松本文男 (今津副支部長)
- 古谷 芳實 (朽木支部長)
- 宮 田 均 (朽木副支部長)
- 玉垣 多美枝 (朽木副支部長兼女性代表)
- 森本 多一郎 (安曇川副支部長)
- 北 坂 修 (高島支部長)
- 山本 紘一 (高島副支部長)
- 評議員 赤崎 太一郎 (マキノ支部代表兼創造推進員)
- 前川 弥嗣 (今津創造推進員)
- 澤田 龍治 (朽木創造推進員)
- 竹 若 孟 (安曇川創造推進員)
- 山本 徳樹 (高島創造推進員)
- 事務局 吉原 康和 (高島市創造推進員)

市内の高齢者の皆さま！「老人クラブ」へのご入会を、お待ちしております！！

老人クラブへの入会は、六十歳以上の方ならどなたでもご入会頂けます。身近な場所に「新しい出会い」があります。

少子高齢社会が著しく加速しています。特に高島市はその傾向が顕著にあらわれています。

特に高島市では若者が少ないため、若者依存にも限界があり、高齢者自らが、残された人生の生き方を考えなければなりません。

そのためには、高齢者同士がお互いに支え合い、また励まし合い、住み慣れた地域で共に過ごしていくことが大変重要な事です。是非、多くの仲間がいる「老人クラブ」に加入し、残された人生をお互いに助け合い、生き生きと過ごし、生きがいと喜びのある日々を送るようではありませんか！

- 地域の同世代の皆さんと、地域に役立つことをしてみませんか！
- 老人クラブは、高齢者が自ら活力を持って、活躍出来る地域の集団です。
- 仲間と一緒に活動し、毎日を生き生きと、心身ともに健康で暮らして行くのではありませんか！
- 老人クラブでは、「健康づくり」「友愛・奉仕」「ふれあい・交流」等、その他さまざまな活動を実施しています。

【老人クラブに加入すると！】

- 一、地域の中の同世代やいろいろな世代との交流で、新しい仲間が出来ます。
- 二、寝たきりゼロ運動やシニアスポーツ等への参加を通じ、健康の保持・増進が期待出来ます。

- 三、今まで培ってきた知識や経験を生かし、新しい生き方が見いだせます。
- 四、ボランティア活動等地域の社会活動への参画と貢献が出来ます。

五、多くの仲間が出来ることで孤独感が解消出来て、満足感・充実感など精神的な喜びを味わい暮らして行けます。

各事務局連絡先

※お問い合わせは、次の老人クラブ連合会各支部までお気軽にご連絡下さい。

マキノ支部	☎(27) 1132	FAX(27) 1129
今津支部	☎(22) 5200	FAX(22) 9056
安曇川支部	☎(32) 1944	FAX(32) 1944
高島支部	☎(36) 8185	FAX(36) 8186
朽木支部	☎(38) 2630	FAX(38) 2951

主な年間行事等

- 高島市老人クラブ連合会 理事会 5月
- 高島市老人クラブ連合会総会・研修会 6〜7月
- 高島市老人クラブ連合会
グラウンドゴルフ大会 9月
- 第1ブロック グラウンドゴルフ大会 10月
- 滋賀県老人クラブ大会 大津市、高島市で輪番に担当 11〜12月
- 滋賀県文化産業交流会館
場所・滋賀県文化産業交流会館
- 女性会員研修会 11月
- 高島市長との懇談会 年1回
- 高齢者相互支援活動研修会 2月
- 場所・長寿社会福祉センター
- 高島市老人クラブ連合会 理事会 3月

本年度の活動内容

◎コロナ禍の中、感染防止に配慮し、市長杯グラウンドゴルフ大会と女性会員研修会を開催!!

本年度も、一向に収束の兆しのない「新型コロナウイルス感染症」の蔓延のため、第一ブロックグラウンドゴルフ大会は止む無く中止となりましたが、感染が若干下火となった昨年の10月26日(火)に、屋外活動の「市長杯グラウンドゴルフ大会」をマキノピックランドグラウンドゴルフ場において、また、11月26日(金)には、「女性会員研修会」を新旭公民館で、「笑い与健康!! 大笑いして健康に長生き!!」と題した講演を、びわこりハビリテーション専門学校と題した講演を、びわこりハビリーション専門学校のご協力を得て、コロナ禍での感染対策である「密の回避」「検温」等の感染防止に配慮しつつ、規模を縮小してどうにか開催出来ました。



市長杯グラウンドゴルフ大会の当日は、終了まで好天に恵まれ、昨今の自粛生活を一時忘れ、お互いに談笑し交流を深めると共に、日頃から磨いた技術を遺憾なく発揮され、有意義な大会となりました。

そしてまた、女性会員研修会においては、女性会員が減少しておりますが、男性会員にも参加を得て、コロナ禍の日常生活の中で、一時、大いに笑いが得られ、山積するストレス発散の場となりました。

市長杯グラウンドゴルフ大会の大会成績は次のとおりです。

- 優勝：小林 義夫さん(マキノ)
- 準優勝：金田 百合子さん(高島)
- 第3位：山浦 清春さん(朽木)
- 第4位：清水 三男さん(安曇川)
- 第5位：清水 信太郎さん(朽木)

◎「高島市老人クラブ連合会への加入促進と存続を求める陳情書」を市議会に提出!!

老人クラブ連合会から脱会する「単位老人クラブ」があとを絶ちません。このまま放置しておく、伝統ある老人クラブ連合会の消滅が懸念されるため、数年前より事務レベルで「活性化検討委員会」を立上げ、先進地調査や市担当課よりの出席を求めた協議など、あらゆる方策で検討を重ねてきました。そして、昨年11月に、市民の代表である市議会にも、こうした実情を承知してもらおうと「高島市老人クラブ連合会への加入促進と存続を求める陳情書」を市議会へ提出しました。

前年同様、本年もコロナ禍の中、定期的に会議を開き、協議検討を重ねていますが、コロナの治療薬と同じく、未だ決め手となる特效薬（方策）は見出せません。しかし、今後も粘り強く協議検討を重ねて行く予定です。会員の皆様の賢明なご意見を、お聞かせ下さるようお願い致します。

マキノ支部

「住民自治協議会」の発足に思う!!

高島市が進める「住民自治協議会の設立」は、全国的に人口減少と少子高齢化が加速し、地域コミュニティや市民生活、地域経済などあらゆる分野に大きな影響を及ぼす中、市民が幸せに暮らし続けられるよう地域力の維持、向上を目的に新たな仕組みづくりを推進することによって、さらに暮らしやすい地域の実現を目指そうとするものです。そのためには住民ひとり一人の目的意識が醸成され、総力を挙げて取り組む体制が求められます。

ところが住民の多くが高齢者となり人口の4割近くを占めている現状とは裏腹に、団体としての



老人クラブは会員の減少・連合会の衰退、組織消滅の危機状態にあります。約60年前に、全国老人クラブ連合会が三大運動「健康・友愛・奉仕」を掲げて結成されて、当マキノ支部も合併当時には町内23集落に1,000人を超える会員で様々な活動

に取り組み、会員相互の絆づくりに努められてきました。現在では僅か1集落80人足らずの会員でマキノ支部を死守しています。これまでに、「個人会員制度」や「会員優待制度」によって会員の増強を試みたものの会員の増加には繋がらず、いよいよマキノ支部の存続は限界です。

一方、現在進められている「住民自治協議会」は、住民が主体であるとの認識の基、住民が一丸となつて取り組む必要があります。加えて、この地域コミュニティの再生には、高齢者の経験豊かな活力ある働きが必要不可欠であることは申すまでもありません。

そこで「住民自治協議会」の船出に際し、高齢者の組織化を図り、全ての集落に新生老人クラブの誕生を企て、再出発する事を願ってやみません。

『住民自治協議会』が目指す「安心・安全で暮らしやすい地域をつくる活動」を成就させるためには、今一度、高齢者が一致団結し、先人達が進めてこられた三大運動「健康寿命を伸ばす活動（健康）・互いが助け合う活動（友愛）・地域を豊かにするボランティア等の活動（奉仕）」の原点に立ち返り、今から始まる、高島市における「地域住民自治協議会」の運営に参画する事が、コミュニティの再構築を成功裏に導く事が出来る条件の一つに

なるものと考えます。

この機会にこそ高齢者の再集結を図るチャンスがある。いや、図らねばならない「救世主」たらん：と願ってみても夢のまた夢か？。

ただただ「住民自治協議会」の成就を願うばかり。

今津支部

今津支部の活動状況

令和3年度の支部事業は、年度当初に計画した事業は計画通り実施することが出来ました。事業そのものは毎年同じもので、変化に乏しいです。また、連合会加入のクラブ減少する中で、事業そのものを見直すなど考える時期に来ているようにも思っています。

そこで、当支部の加入単老「中野秀麗会」の活動について紹介します。当クラブは平成10年に結成され、会員数37名（80歳未満が21名）です。

例年、春・秋にグラウンドゴルフ大会、シルバ―無事故運動、日帰り研修旅行、新年会、忘年会、お楽しみ会、新規事業として、令和3年度から会員誕生日祝などの活動を行っています。特に、無事故運動は、9月、10月の1日、15日の4回、出勤通学の時間帯の7時



20分から30分程度国道沿いの横断歩道で立ち番をし、20年超の活動となつている。少子高齢化が進展する中、地域住民との協調性を重んじ、広く積極的に社会参加に努めていきたいと話している。

安曇川支部

百年花とツチノコ

定型的な模範原稿は好まないのので容赦願いたい。今回は、百年ぶりに竹の花が咲いたことを取り上げる。百年前、スペインより発生した感染症が世界中で猛威を振るい数千万人感染、半数が亡くなった。その年、竹の花が満開で終息まで数年を要した。不思議と同じ周期である。

花と云っても花片ではなく全体が白く映えるもので花と気づかない。吉相ではないのでコロナの終息を願いたい。

国では不要の催事抑制を言いながら不要不急のイベントの五輪開催を行った。金まみれのバツハの言う「オリンピック開催は犠牲を払わなければならぬ」ふざけるな!!

次ツチノコへと話題は移ります。

きままるの「あれから40年」前にツチノコ発見騒動、捕獲すれば1億円で県が買い上げる夢に「ゴードラッシュ」が起き、仕事を放ってツチノコ探しをする人まで現れた。夢があつて何か楽しくなりますね。

実際、私の先祖でツチノコを見た人がいる。祖父が報道を見て「親父が山で見た蛇や」と言っていたことを思い出した。

私の家は代々林家で曾祖父も毎日山仕事に行っていたが、ある日とんでもない蛇を見た。形はツチノコ(藁を打つツチノコ)みたいで、蛇のように蛇行しないで三尺(約1尺)程空中を飛んで移動するのを見て怖くなり、一目散に山を下りた。今ツチノコが現れたら、世の中少しは明るくなる。口マンがありますね。

朽木支部

大雪とコロナ禍の中で!!

大雪の中です。コロナも追いかけて来ます。多くの行事・事業が中止や延期となる中で、何とか屋外でのグラウンドゴルフ大会の開催回数を増やすなど、老人クラブ活動を続けている状況です。

また、朽木支部では、月2回(原則的に10日と20日)の交通安全活動が、全員の協力で今年も継続出来ています。今年で10年になります。

ところで、私事で恐縮ですが、朝市用に白菜を収穫しました。多少日陰の畑であるということもありますが、1畝20坪の雪の中からです。やわらかい、甘くなっているという励ましを受けて、また来週も掘り出すつもりです。

腰の痛さと相談しながら... 運動のつもりで... 今日雪が降っています。

春は来る 春はいつ来る 暦みる

高島支部

グラウンドゴルフ大会 盛会裏に終了

世紀の祭典、東京オリンピックピック開会式の興奮冷めやらぬ7月26日(月)梅雨明けの晴天の下に、高島(伊黒)の旧高島町立第三小学校グラウンドに於いて「高島支部グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

当日は、真夏の太陽が早朝からガンガンと容赦なく緑の芝に照り付ける、正に「酷暑」の日でした。それでも「昔青年・?」「今の熟年世代」は元気はつらつ、やる気まんまん、とてもイキイキです。なんと26名(男女各13名ずつ、5単位クラブから)の皆さん方にご参加頂きました。

受付8時、開会式8時20分、競技開始8時30分、12ホール×2ラウンドで競技を楽しみ、皆さん和やかなうちに、大いに親睦を図って頂きました。成績発表も大きな桜の木の下の木陰で皆さんにお揃い頂き、優勝者、入賞者、飛賞、プービー賞、ホールインワン賞の皆さん方を祝福させて頂き、無事に楽しい真夏の一時を過ごさせて頂きました。



社会情勢の著しい変化や少子高齢化の進展で、住民意識・生活スタイル等が大きく変化しています。

令和3年におきましても、全世界に蔓延している「新型コロナウイルス感染症」は一向に収束の目途は立たず、ワクチン接種は進んだものの、変異株の発生により、感染防止のための自粛生活で満足な活動が出来ない状態が続いています。

日常生活では、長引く「コロナ生活」により、冠婚葬祭等の催しは変化の兆しが見られますが、住民意識は少しも変わらず、高齢者は自分自身で、若者に頼らない老後の生き方、過ごし方を考えなければなりません。

こうした社会情勢の中、元気に生き抜くには、地域でのお互いの助け合いや支え合い、そして仲間づくりが大変重要なことです。

少子高齢化はますます加速し、若者は便利性の高い都会に流れ、出生数の減少とも相まって、地方は疲弊の一途を辿っています。

地方で生活していくには、ご近所や仲間同士の支えあいが必要で、是非とも「老人クラブ」にご入会頂き、残された人生、共に楽しく暮らして行くようではありませんか!そして、共に助け合いながら、残された人生を送るようではありませんか!市内高齢者の皆さまの、ご入会を心よりお待ちしております。(事務局)